あかつき

暁光

暁星国際流山小学校 学校通信　2026．11月号

学びを実生活や社会、世界と結びつける
～自分の考えをもち、主体的に行動する力を高めるために～

11月

校長　佐藤　智子





１０月９日に茗渓学園高校１年生５名が本校で職場体験をしました。１学年に入り、給食や外遊び、レクなどで児童と共に過ごしました。「初めて先生の立場で考えた。自分を見てほしがる１年生に傾聴力は大切。怒らずとも静かにさせる方法に驚いた。児童を一人の人間として受け止め、話していくのは大変だが、いい経験になった。先生の目線で周りを見ることをこれから生かしたい。」などの振り返りの言葉から、短い時間の中でも多くの学びを得た様子が伝わりました。




３年生の体験的活動が１０月に３つありました。１４日は３年生で「みりん塾」（[株]流山キッコーマンによる出前授業）が実施され、“みりん博士”からみりん醸造の工程や歴史について学びました。原料の米麹や醤油糟、みりん糟を実際に触って香りを嗅いだり、みりんシロップの作り方を聞いたり、みりんの魅力にふれました。なぜ流山でみりん作りが進んだのかなどのクイズにも積極的に参加し、プチみりん博士がたくさん誕生(!?)したと言える授業でした。





２つめの活動は２１日に受けた「 JICA 出前授業（オンライン）」です。バヌアツ共和国で青年海外協力隊として働く藤原祐真先生からバヌアツの特徴などをお聞きし、お互いの学校紹介ビデオを視聴後、バヌアツの児童は「虹」の歌唱、本校児童は「日本のくらし」クイズで交流しました。質問タイムでは、時差・お金の単位（「バツ」だそうです）・名物・人気のスポーツ・人口などを尋ね、藤原先生から実際のお札を見せていただくなど、子ども達は画面に終始見入って学習していました。国際理解教育により自分たちの生活を別の角度から見つめ直すことができ、学びの多い貴重な時間でした。







３つめは２３日に実施したキッザニア体験です。今年は各自で自分の興味ある仕事を回れるよう計画表を作り、臨みました。当日はかなり混雑していましたが、臨機応変に行動することで時間を上手に使い、望んだアクティビティ以外にも体験することができました。体験中はその仕事に集中し、なりきって取り組む姿がたくさん見られ、「なりきる」ことで子どもの成長が促されることを実感しました。校外学習テーマが「みらいのとびらをひらくお仕事探究～身近な発見からキッザニア体験、そして自分のしょうらい～」でした。この日の体験によって、仕事を“いつかやるもの”でなく“今の自分からつながっていくもの”と捉えることにつながり、未来の扉が開いたのではないかと思います。

いろいろなくふうなどをして、みんなにていきょうすること、いろいろなきんちょうの場面もあることがわかった。社会に出てこの日を思いだして、毎日がんばりたいです。

いろんな仕事があり、くつ、おかしなど、自分にとってなくてもいいな～と思うけれど、ほかの人にとっては、ひつような仕事だと気づきました。

わたしは、どんな事にも、たいへんだったり、ネガティブなところがあるんだなと思いました。けれども、好きな仕事も、いろいろなけいけんにいかせるな、とかんじました。

キッザニアではたくさんの仕事をたいけんして、どの仕事も人の役に立つんだなと思いました。これからは、一つ一つの仕事はどんな、み力があるのかを考えていきたいと思いました。




９月３０日に１年生は校外学習（東武動物公園）に行きました。「ふれあい動物の森」でのモルモット・ウサギ・ひよことのふれあいは、恐る恐る触る子、慣れた手つきの子、いろいろでした。晴れ間が覗く絶好の日和で、見学だけでなく昼食も笑顔満開。お弁当を嬉し

そうに頬張り、午後のサバンナエリアでの班行動では声を掛け合い協力して活動できました。各班で決めた動物を、どの児童もじっと観察し、分担した動物のパーツの絵をとても熱心に描いていました。




ひよこをさわったことがこころにのこりました。なぜなら、だっこしたときに、じぶんのてがひよこのベッドになったきぶんがしたからです。

ひよことうさぎがこころにのこりました。なぜなら、からだをなでたときふわふわしててかわいかったからです。おべんとうはちいかわのうさぎをおかあさんがつくってくれてうれしかったし、かわいかったです。

みんなといっしょにたのしくすごせたことがこころにのこりました。なぜなら、みんなといっしょにすごすとしあわせだからです。

こころにのこったことは、はんのみんなでで、シロサイ、シロオリックス、キリン、シマウマをかいたことです。だってみんなのえがじょうずだったり、みんなとえをかいたらたのしくなったからです。



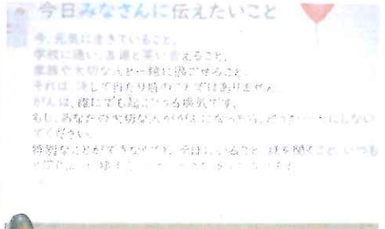




授業参観にはたくさんの保護者の方にご参観いただき、ありがとうございました。今年度から取り組む English Showcase（１年：スピーチ・２年：Show and Tell ３年：グループ劇・４年：グループプレゼン・５年：グループディスカッション・６年:スピーチ、各学年代表児童は暁祭で発表予定）では、学年別にアウトプットの形を変えています。様々な形でのアウトプットを経験し、双方向で交流する力も伸ばせるよう取り組んでいます。



１１月２７日に開校して初めての公開授業研究会を実施します。本校が目指す「真の国際人」とは単に外国語を話せる人ではありません。「自分自身と自国文化への理解を土台とし、多様な異文化や他者を尊重しながら、広い視野で社会や世界の課題を自分事として捉え、他者と協働しつつ主体的に行動できる人」と捉え、全職員で協働して「真の国際人」に必要な資質・能力を考えました。それを左に示しましたが、この←「１０の資質・能力」を育てるために、本校では、児童が自ら問いをもち、各教科の学びを関連付けながら課題を追究する「探究型教科横断学習」を研究の中心に据えています。学びを実生活や社会、世界と結び付けることで、児童が学ぶ意味を実感し、自分の考えをもちながら、主体的に学び行動する力を高めていくことを目指します。この研究の経緯や意義については、１７日の教育講演会講演①で阿部始子教授にお話しいただきました。感想を紹介します。「＊大変感銘を受けました。単に語学力を身につけるだけでなく、その背景にある文化や多様性を理解することこそが「真の国際人」への一歩なのだと深く実感いたしました。　＊先生たちも、国際人育成という視点において、様々な考えをディスカッションしながら、カリキュラムを構築していただいている点が勉強になりました。」教育講演②「いのちのおはなし」（細野亜古医師）の感想も紹介します。「＊がん教育を通じて、命の尊さ、今を生きる大切さを改めて再確認できました。色々な患者さんのエピソードには、涙を抑えることができず、心を動かされました。　＊先生のお話の一つ一つが重く心に響き、これから生きる上で節目での指針になると思います。　＊『一日一日を大切に生きる』とおいう言葉の通り、今ある日々に感謝し、毎日を懸命に生きていこうと強く思わされる貴重なお話でした。素晴らしい学びの機会をありがとうございました。」多数の保護者の方のご参加、ありがとうございました。今後も保護者の方とともによりよい学校づくりに努めて参ります。


先月号で図書ボランティアの方によるフィルム貼りを取り上げましたが、作文にこのように書いた児童がいましたので紹介します。「お母さんが『たくさんの人たちに読んでもらいたいから、本がいたまないようにしているんだよ。』と言っていました。一つ一つの本に保ごシールをはるのは、大へんだろうなと思いました。これからも、借りた本を大切にします。いつもありがとうございます。」　３年　橋本 依茉さん　「ミステリーパック」（４～６年生対象）が大変好評で、うれしそうに借りていく児童が多くいますが、このような背景を知り、図書室の本に親しめることに感謝したいものですね。



